様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１３２８０

研究課題名（和文）アメリカ西海岸におけるアジア武術の受容、普及および変容　1950年 - 1993年

研究課題名（英文）The Reception, Transmission, and Transformation of Asian Martial Arts on the West Coast of the United States: 1950-1993

研究代表者
モラスキー　マイク（Molasky, Michael）

早稲田大学・国際学術院・教授

研究者番号：８０５８５４０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間中、次のような成果を上げた：①日米両国の複数の図書館及び特別資料館で資料収集を行った、②二回にわたる米国西海岸での現地調査を実施した（資料収集の他に研究者及び武道伝授者へのインタビューを行い、武術道場での現場観察も実施した）、③英国バース市で国際研究集会"New Research on Japanese Martial Arts"を共催で実施した、④英国とベルギーで開催された武術関連の国際研究集会で研究発表を行った、⑤五点の論文を出版した、⑥英国カーディフ大学出版会発行の武術研究の学術誌Martial Arts Studiesの特集号を共同編集した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の目的は、東アジア発祥の多様な伝統武術と武道が、米国の西海岸で1950年から1993年にかけてどのように伝播し、受容され、普及し、そして新たな文化行為へと変容しながら定着していったかという一連の過程を、実践および表象の両面から究明することにある。国際研究集会及び国内外の学術誌で我々が発表した武術研究で証明できたのは、米国内でのアジア武術の受容と変容の歴史は、実践の側面（武術道場での直接の伝授）そして表象の側面（映画やテレビなどで構築されるアジア武術のイメージ）が密接な相互関係を成していることであり、したがって両側面を視野に入れなければ、その受容の歴史が十分に解明できないということである。

研究成果の概要（英文）：During the research period, we achieved the following results: (1) collected research materials at numerous libraries and specialized archives in both Japan and the United States; (2) conducted fieldwork twice on the West Coast of the United States (in addition to collecting research materials, we conducted interviews with martial arts scholars as well as with instructors, and we observed classes at various types of martial arts schools); (3) co-organized an international research conference entitled "New Research on Japanese Martial Arts" held in Bath, U.K.; (4) presented papers at international conferences on martial arts research in both the U.K. and Belgium; (5) published five papers in academic books and journals; (6) co-edited a special issue of the journal "Martial Arts Studies," published by Cardiff University Press.

研究分野：人文学

キーワード：武術　日系アメリカ移民　文化受容　文化変容　日米交流史

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本を含む東アジアで生まれた武術や武道が欧米でどのように受容され、普及・変容したのかという問題をテーマとした歴史研究は、日本ではこれまでほとんどなされてこなかった。現地資料を用いた本格的な歴史研究は2000年代に始まり、イギリスや南アメリカにおける柔術の伝播をテーマとした岡田桂、薮耕太郎の研究を嚆矢として、スポーツ人類学の分野では寒川恒夫等による調査研究が、欧米における柔道・剣道・太極拳の実践者の意識やグローバル化に伴う問題については永木耕介・小沢博・倉島哲等による調査研究が代表例として挙げられる。しかし、これらの研究においては、海外におけるアジア武術の受容と普及に多大な影響を及ぼしたとされる、日本産の時代劇映画と香港産の任侠映画・カンフー映画等は視野外にあると言ってよい。

(2) 他方、海外の研究者は、日本の研究者とは対照的に、これまで「武術映画」（martial arts films）に注目する傾向が強く、文化表象レベルでの考察については一定の研究の蓄積がみられるが（D. Bordwell, P. Bowman, D. Desser, P. Fu, M. Farquhar, L. Hunt, G. Marchetti, M. Morris, S. Teo 等）、いずれも文献資料の研究や現場調査を行っていない。スポーツ人類学や社会学といった分野では、武術をテーマとした実態調査も行われているが（T. Green, K. Kim, J. Lewis, J. Svinth, S. Takimoto 等）、研究対象が一国一種類の武術のみであることが多く、また、現地調査を中心としている反面、映像メディア上の武術の研究が対象外となっているという問題が指摘できる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジア発祥の多様な伝統武術と武道（以下、「アジア武術」）が、米国の西海岸で1950 年から1993 年にかけてどのように伝播し、受容され、普及し、そして新たな文化行為（cultural practice）へと変容しながら定着していったかという一連の過程を究明することにある。米国におけるアジア武術の受容と普及は、(1)道場での直接の伝授、(2)映画やテレビ、コンピューターゲーム等の映像メディアによる「擬似体験」といった、映像化された虚構の物語を通じてなされてきた。本研究では、資料や映像の分析ならびに現地での聴き取り調査や観察によって得た情報を用いることによって、グローバル文化として世界に広がるアジア武術を実践面と表象面の双方から考究し、両者の相互関係を究明すると同時に、米国におけるアジア武術の受容の歴史とその実態を多角的・複合的に分析した。

3. 研究の方法

（1） 米国におけるアジア武術の受容と普及を、1950-1993 年の西海岸を中心に、３期に分けて分析した：①日本・沖縄発祥の武術優勢期（1950-

1964）、②カンフーの普及・アジア武術多様化の開始期（1965-1979）、③多様化・混合化を伴う武術の定着期（1980年-1993）。

（2） 東アジア発祥の多様な武術を「アジア武術」として包括的に捕捉した上で研究を進めた。

（3） 各種武術の伝授の歴史に関する資料を収集し、分析した。また、その作業を踏まえて国内外の武術研究者と研究経過について協議した。

（4） 米国の現地調査の一端として多様な武術の指導者へのインタビューを行い、武術道場で現場観察も行った。

（5） 米国における武術の普及に、とくに大きな影響を及ぼした映像作品の収集および表象分析を行いつつ、武術伝授への影響を考察し、両者の関係を整理した。

4．研究成果

以下、研究成果を年度別に要約する。

平成２８年度研究実績の概要

平成２８年度は、以下の作業を実施した。

（１）日米両国における資料収集――日本においては、①研究代表者による在日米兵向けの新聞「星条旗」（Stars and Stripes）の終戦直後から１９６０年代までの柔道、柔術、空手、合気道、剣道など日本の武道・武術に関する記事の検索および収集、②研究分担者による日本語で書かれた日系移民と武道・武術に関する資料および占領下の日本の武道・武術に関する資料の検索および収集を行なった。米国においては、③研究代表者と分担者の共同作業として、平成28年８～９月にサンフランシスコ市内で実施した現地調査の一環として、同市立図書館で東アジア武術の現地での受容および普及に関する英文資料の検索および収集を行った。（２）サンフランシスコ周辺での現地調査――研究代表者と分担者が共同で、平成28年８～９月にサンフランシスコ市内で現地調査を実施し、上記の資料収集のほかに、①市内の多様なアジア武術の伝授の現場（道場のみならず野外教室も含む）の観察、②指導者および実践者へのインタビュー、③サン・マテオ市の日本人が指導する剣道道場での稽古現場の観察およびインタビューを実施した。

平成２９年度研究実績の概要

平成２９年度に実施した主な活動は以下のとおりである。

（１）研究代表者と英国カーディフ大学教授ポール・ボウマンが企画した国際研究集会 New Research on Japanese Martial Arts [日本武術の新研究]を５月３日に英国のバースで開催した。英国、ドイツ、日本、韓国、ロシア等から参加した研究者約３

０名による活発かつ有意義な討論ならびに研究交流が行われ、研究分担者が同集会で“The Creation of Kendo’s Self-Image: 1868-1945”という発表を行った。
（２）８月11日～16日に研究代表者と研究分担者が米国のシアトルで、以下のような現地調査を実施した。①米国北西部におけるアジア武術の受容史に関する研究の第一人者であるJoseph Svinth氏の武術関連のコレクションの閲覧および当人に対する２日間にわたるインタビュー、②Wing Luke Museumでのブルース・リー関係資料の閲覧、アジア移民とスポーツに関する特別展示等の見学、③戦前に設立されたSeattle Kendo Clubの稽古の見学、指導者へのインタビュー、④Nisei Vets Hall（日系人元米兵関係施設）の見学、⑤ワシントン大学図書館のSpecial CollectionsのひとつPacific Northwest Collectionの閲覧、武術関係資料の検索および複写、⑥ワシントン大学図書館のOldegaard Libraryの図書館員および市内のベテラン剣道指導者であるThomas Bolling氏へのインタビュー。
（３）研究代表者と分担者がそれぞれ個別に論文を発表した（詳細は後掲）。

平成３０年度研究実績の概要

平成３０年度は、平成28年度以降に得た情報――すなわち、先行研究、収集した史料や映像作品、米国西海岸各地で実施したインタビューや現場観察記録――を整理・分析し、学会および専門誌で発表することに専念した。また、この一連の作業を経て不足していた情報を、研究代表者と研究分担者それぞれが国内および米国での短期間の現地調査等によって追加収集した。３０年度における各自の主な研究成果は、以下のとおりである。
研究代表者――①平成２８年と２９年にサンフランシスコやシアトルの図書館等で収集した資料のうち、電話帳広告を中心に分析を試みることで、米国社会におけるアジア武術の伝播と流行の推移、およびその総称の変化の軌跡を明らかにした論文を論集The Martial Arts Studies Readerで発表し、②武術研究の学術誌Martial Arts Studiesのゲストエディター（共編者）として、同誌２０１８年夏発行の第６号特集“New Research on Japanese Martial Arts”を編集（特集号のためのイントロダクションの執筆、論文の査読、翻訳、校正等を含む）した。
研究分担者――①戦後の米国における日本の武道に対する規制の実態を平成２８年と２９年に収集したＣＩＡ資料等によって把握し、政策戦後占領期の日本で実施されたＧＨＱの武道政策と比較検討した。それらの成果を用いた報告を11月にベルギーのゲント大学で開催されたThe Annual Conference of the Martial Arts Section of the German Society of Sport Scienceで行った。②平成２９年５月に英国のバースで開催された国際研究集会で報告したものを当日の議論をふまえて加筆修正し、Martial Arts Studies の上記の特集号の論文として発表した。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　（計３件）

① **MOLASKY Michael**, “Introduction: On Martial Arts Studies in Japan: A Provocation” ***Martial Arts Studies Journal,*** **査読有、6巻, 2018年, pp. 6-9**
DOI: 10.18573/mas.69

② **SAKAUE Yasuhiro**, “The Historical Creation of Kendo’s Self-**Image from 1895** to 1942: A Critical Analysis of an Invented Tradition,” ***Martial Arts Studies Journal,*** **査読有、6巻, 2018年, pp. 11-27**
DOI: 10.18573/mas.66

③ **坂上康博、GHQ占領下における剣道――規制、存続、スポーツ化、芸能化の諸相――、一橋大学スポーツ研究、査読無、35巻、2016年、pp. 3-17**
DOI:なし

〔学会発表〕（計２件）

① **SAKAUE Yasuhiro**, **The Nationalization of the Body in Martial Arts: A Case of Postwar Japan, The Annual Conference of the Martial Arts Section of the German Society of Sport Science (Gent University), 2018**

② **SAKAUE Yasuhiro**, **The** Creation of Kendo’s Self-**Image from 1868 to 1945：A Critical Analysis of Invented Tradition, New Research on Japanese Martial Arts,（英国Bath Royal Literary and Scientific Societyで開催された国際研究集会）、2017**

〔図書〕（計３件）
（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

① **MOLASKY Michael, The Phone Book Project: Tracing the Diffusion of Asian Martial Arts in America Through the Yellow Pages, Paul Bowman, ed., *The Martial Arts Studies Reader* (Rowman & Littlefield, 2018), 図書所収論文、pp. 57-72**

② **MOLASKY Michael, Guest Editor (co-editor) of Speci**al Issue “New Research on Japanese Martial Arts,” ***Martial Arts Studies Journal,*** **Issue 6, 2018, 110**

③ **坂上康博、柔道思想とオリンピズムの交錯――嘉納治五郎の「自他共栄」思想、小路田泰直・井上洋一・石坂友司編、ニッポンのオリンピック、青弓社、2017年、図書所収論文、pp.131-162**

６．研究組織

（1）　研究分担者

研究分担者氏名：坂上康博

ローマ字氏名：SAKAUE, Yasuhiro

所属研究機関名：　一橋大学

部局名：大学院社会学研究科

職名：教授

研究者番号：１０１９６０５８

（2）　研究協力者

①　研究協力者氏名：ボウマン、ポール

ローマ字氏名：BOWMAN, Paul

②　研究協力者氏名：スヴィンス、ジョーセフ

ローマ字氏名：SVINTH, Joseph